

那須岳の火山活動解説資料（平成 31 年 3 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3 - 、図 4 - ）
湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約 5 km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約 0.8km）による観測では、茶臼岳の噴気は少ない状態で、噴気の高さは火口上概ね 100m 以下で経過しています。
- ・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4 - 、図 5）
那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図 4 - 、図 6）
GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図 1 那須岳 茶臼岳の状況（3月18日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（平成 31 年 4 月分）は平成 31 年 5 月 14 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』、『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）

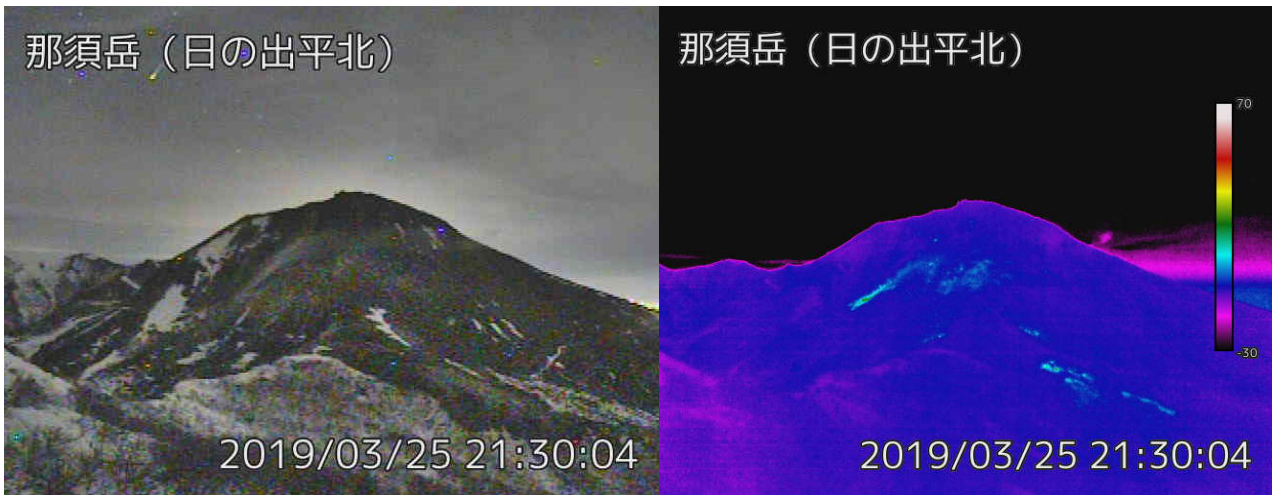


図2 那須岳 茶臼岳の西側斜面の可視画像と地表面温度分布（日の出平北監視カメラによる）
 ・噴気孔に対応して高温部分が認められます。

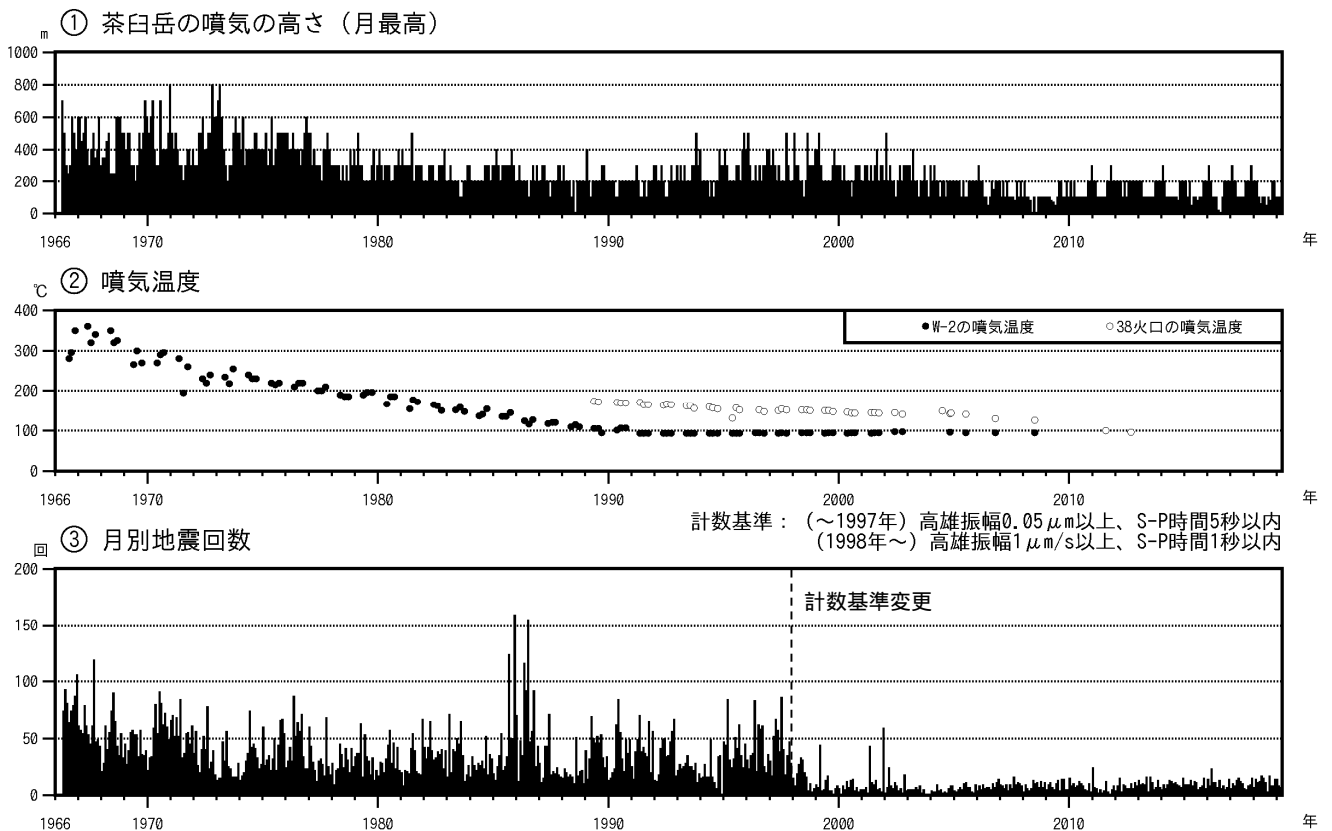


図3 那須岳 火山活動経過図（1966年1月～2019年3月）

定時観測（09時・15時）による月最大値

噴気温度、W-2及び38火口はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点

月別地震回数（～1997年：那須岳周辺の地震を含む、1998年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）

・噴気活動、地震活動は低調に経過しています。

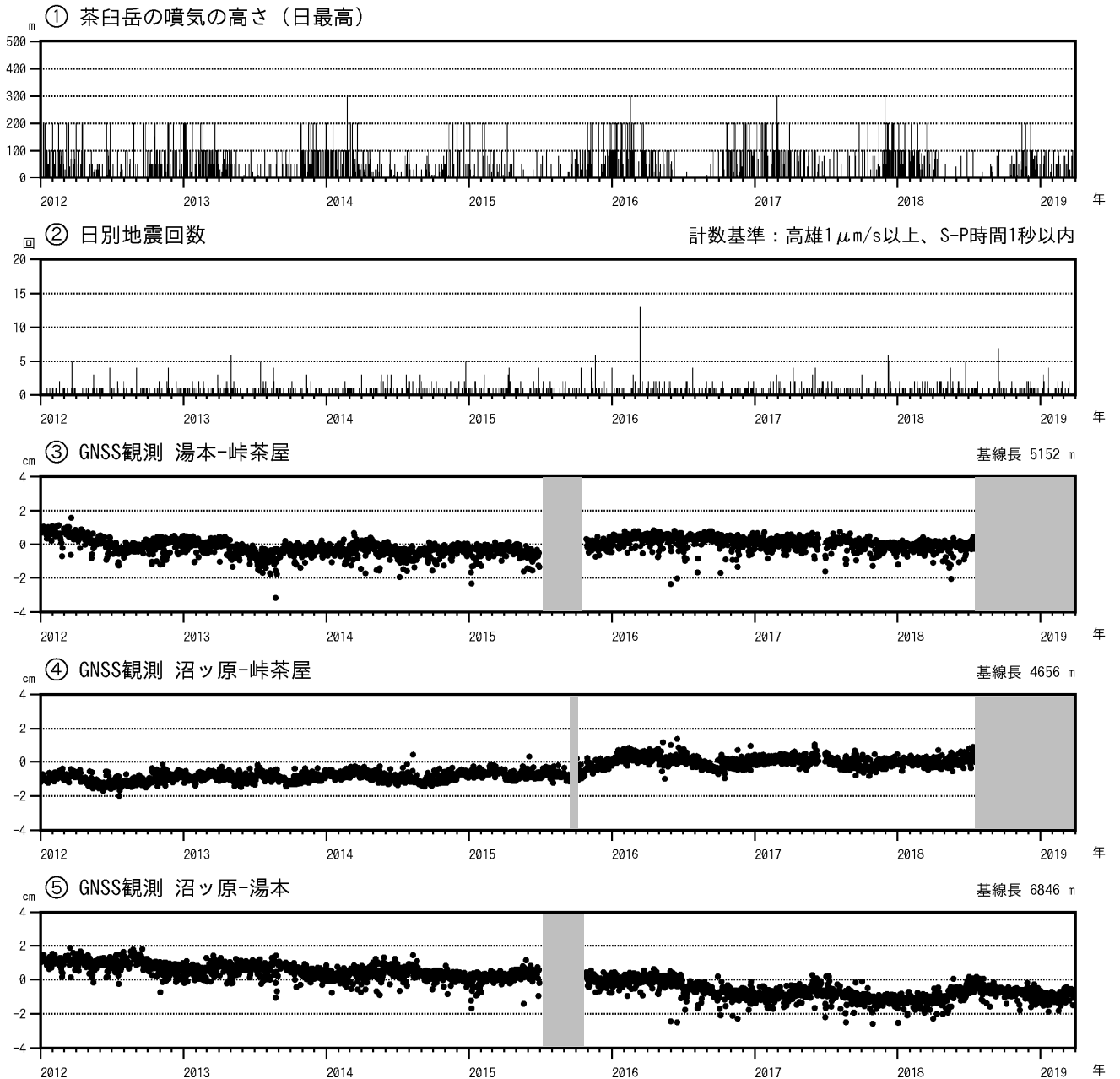


図4 那須岳 火山活動経過図(2012年1月1日~2019年3月31日)

定時観測(09時・15時)による日最大値
 ~ GNSS連続観測による基線長変化
 の基線長変化にみられる夏季の伸びの傾向は、季節変動と考えられます。
 ~ は図6のGNSS基線 ~ に対応しています。2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
 グラフの灰色部分は観測点の障害によるものです。

・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。

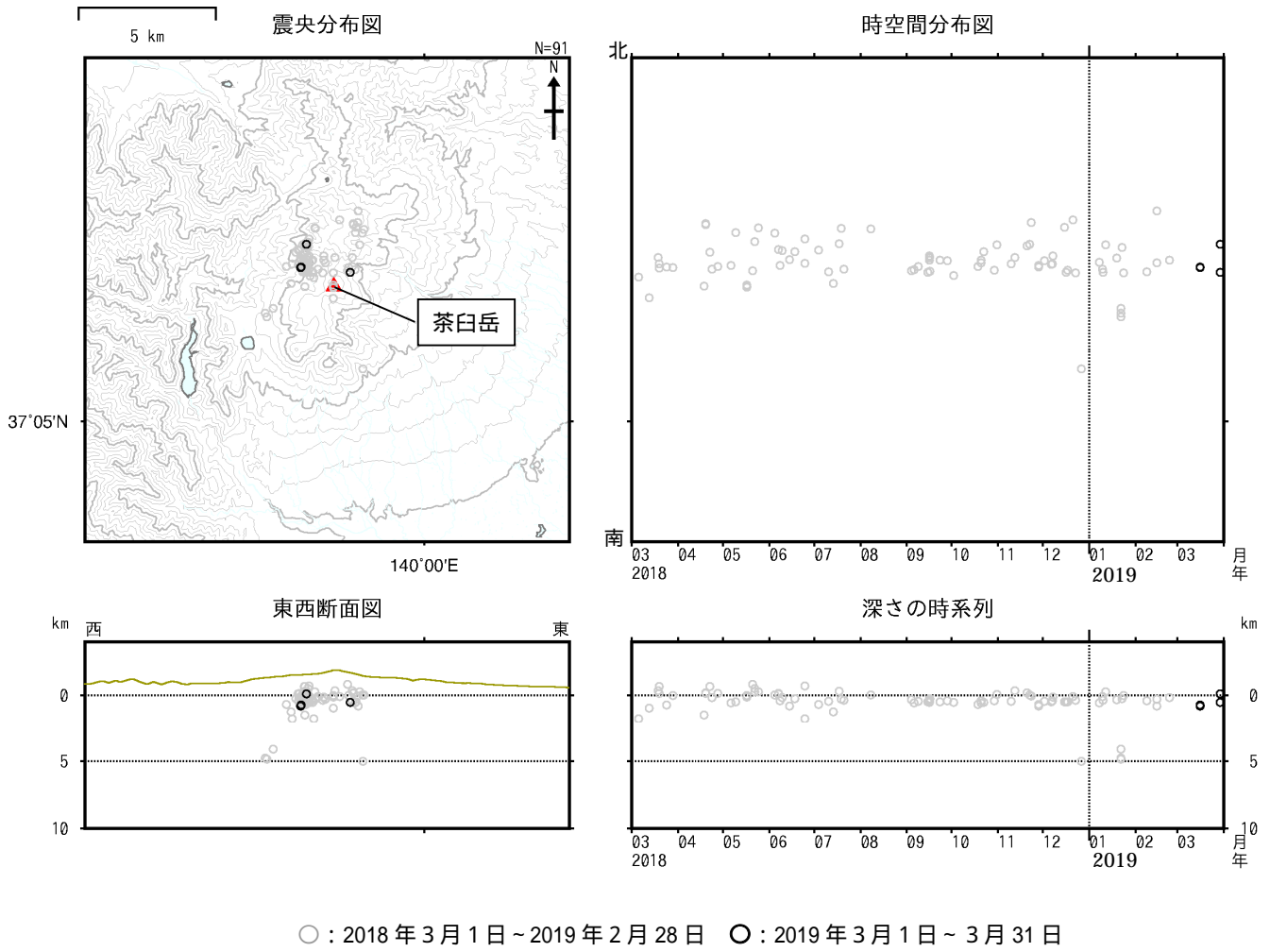
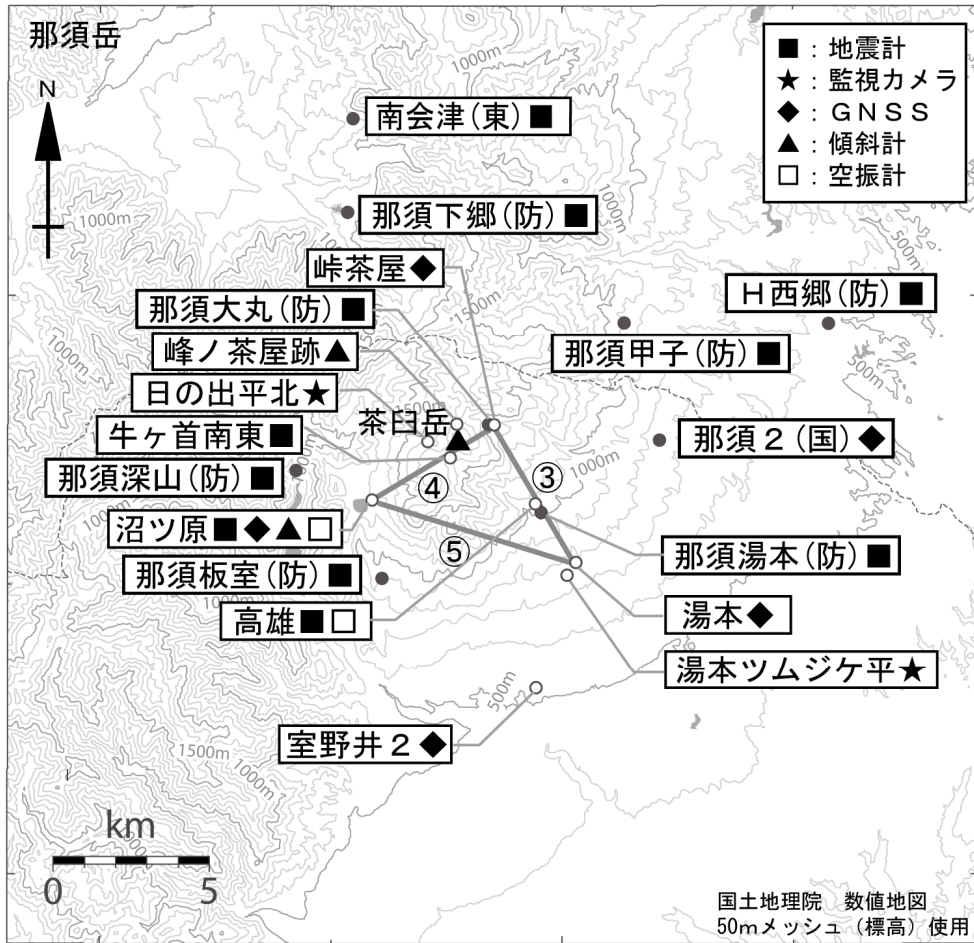


図5 那須岳 震源分布図(2018年3月1日~2019年3月31日)

・那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(東): 東北大学

図6 那須岳 観測点配置図

GNSS 基線 ~ は図4の ~ に対応しています。